

幼稚園における入園式翌日の保育について

—学生が行う模擬保育と考察—

林 富公子

HAYASHI Fukuko

保育者養成校の学生は在学中、入園期の子どもと関わることはほとんどない。学生が実習で関わる子どもは朝の準備や大まかな1日の保育の流れを知っている子どもたちである。しかし、保育者養成校の学生が卒業し保育者になって初めて出会う子どもは入園期の子どもである。つまり、学生が実習における子どもの様子を想像しながら入園期の子どもの保育をすると予想外の事がたくさん起こり、学生は大変混乱してしまうことが推測される。そこで今回は保育者養成校の学生最終学年最終学期時に、学生が入園式翌日の保育に対する模擬保育を通して考える機会を作った。

キーワード：3歳児、環境構成、幼稚園教諭の援助と配慮

1. はじめに

①幼稚園教育要領における入園期の子どもの様子

幼稚園の入園式の様子を見てみると、入園を楽しみにしていた笑顔の子ども、少し緊張している子どもなど様々な姿の子どもがいる。同時に、入園した子どもと一緒に、その子どもの親や祖父母などが子どもの成長を喜び満面の笑みで写真に納まる姿もある。

幼稚園に入園する子どもの中には、小規模保育など他の保育施設で育った子どももいる。しかし、幼稚園入園を期にそれまで家庭で養育されてきた子どもが多いと思われる。

家庭で育った子どもたちにとって、幼稚園に入

園することは、自分の家族とは違う幼稚園の教師や友達と関わるということである。同時にそれは、今までとは全く異なる場所での生活をすることを意味する。だから幼稚園に入園する子どもにとって、入園式翌日から始まる幼稚園での生活は未知の世界であり、入園したばかりの子どもの胸には期待や不安が入り混じることが予想される。

2008年の幼稚園教育要領解説の中にも次のような事柄が記載されている。

多くの幼児にとって幼稚園生活は、家庭から離れて同年代の幼児と日々一緒に過ごす初めての集団生活である。(中略)。しかし、このような集団での生活の中では、親しい人間関係の下で営まれる家庭生活とは異なり、自分一人でやり遂げなければならないことや解決しなければならないこと

に出会ったり、その場におけるきまりを守ったり、他の人の思いを大切にしなければならないなど、今までのように自分の意志が通せるとは限らない状況になったりもする。

(中略)

このような新たな生活の広がりに対して、幼児は期待と同時に不安感や緊張感を抱えていることが多い。家庭や地域での生活において幼児が安心して依存できる保護者や身近な大人の存在が必要であると同様に、幼稚園生活が幼児にとって安心して過ごすことができる生活の場となるためには、幼児の行動を温かく見守り、適切な援助を行う教師の存在が不可欠である¹⁾。

また、幼児期の発達の特性として幼稚園教育要領解説では次のように述べられている。

幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する時期である。そのために自分の力で取り組むことができることが多くなり、幼児の活動性は著しく高まる。そして、ときには、全身で物事に取り組み、我を忘れて活動に没頭することもある。こうした取組は運動機能だけでなく、他の心身の諸側面の発達をも促すことにもなる。

幼児期は、次第に自分でやりたいという意識が強くなる一方で、信頼できる保護者や教師などの大人にまだ依存していたいという気持ちも強く残っている時期である。幼児はいつでも適切な援助が受けられる、あるいは周囲から自分の存在を認められ、受け入れられているという安心感などを基盤にして、初めて自分の力で様々な活動に取り組むことができるのである。すなわち、この時期は、大人への依存を基盤としつつ自立へ向かう時期であるといえる。また、幼児期において依存と自立の関係を十分に体験することは、将来にわたって人とかわかり、充実した生活を営むために大切なことである²⁾。

この事からも分かるように、幼稚園に入園してきた子どもには「自分でやりたい」という気持ちや「自分でできる」という自信がある。従って、その時期の子どもは幼稚園生活に対して「大きくなった」という自負があるので、楽しみ・期待を持っているのではないだろうか。しかしその一方、「信頼できる保護者や教師などの大人にまだ依存していたいという気持ちも強く残っている」為に、幼稚園生活において誰かに頼ったり、助けてほしかったりという思いも同時に持ち合わせている。

そこで幼稚園教育要領では教師と幼児が十分に信頼関係を作ること³⁾が求められている。また、幼稚園における幼児の生活では、入園当初の一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して幼稚園生活に親しみ、安定していくこと⁴⁾が重要であるとも述べられている。

これらのことから幼稚園生活において教師と幼児の温かな関係は入園当初より看過できない事柄であると考えられる。更に、入園当初においては幼児が幼稚園の生活を安心して過ごす事が出来るようになる為にも必要な要素であると言える。

②具体的な保育現場における3歳児入園期の子ども様子

幼稚園3歳児クラス28名中21名が「幼稚園でママと一緒にいたいと訴えている」こともあり多くの子どもが幼稚園や家などで母子分離に対する思いを訴えていることが言われている⁵⁾。

このような母子分離に対する研究では、3歳児で分離不安が強い幼児と同年齢で分離不安が現れない幼児を比較したところ、月齢、出生順に、検診時の情緒的混乱、教師との密着の有無について有意な差が見られたものがある⁶⁾。

この時期の3歳児の子どもたちの母子分離に対する姿は「大きな声で泣く」、「母親の後追う」や「抱こうとすると、あらんばかりのエネルギーで抵抗する」ように激しく動くものだけではない。

不安に対し「涙をため母親が来るかどうか保育者に聞き続け、母親が来る時刻をじっと椅子に座って待つ子ども」や「個人用のロッカーなど自分

の安定できる場所で降園まで過ごす子ども」など子ども一人一人によってその不安の表出の仕方は異なってくる。

一方、幼稚園の入園を心待ちにしており、走り回ったり、自分の好きな遊具や遊びを見つけてじっくり遊んだり、教師の話に生き生きとした表情で聞き入ったり楽しんで歌ったりする姿もあり、入園児の子どもの表す姿は千差万別である⁷⁾という。筆者はこの様な入園当初の子どもの姿を保育者養成校の学生容易に想像できるかというとなかなかではないかと考えた。

③保育者養成校の学生が実習で出会う子どもの姿

本学の幼稚園及び保育所の資格を取得する学生が実習で子どもと出会う時期は次の表の通りである⁸⁾。つまりある程度クラスが落ち着いている時期での実習となり、4月の入園当初のまだ落ち着いていない子どもたちと出会うことはないしその姿を実習で見ることはない。

一方、本学で幼稚園教諭または保育士を目指している学生が就職した保育現場で初めて出会う子どもは、4月の入園当初の子どもである。授業などでも4月入園当初の子どもの姿を伝えたりすることはある。

しかし、筆者は授業において入園当初の子どもの様子や保育を具体的に考察することは余りなかったような気がするし、その姿を踏まえて学生と入園当初の保育について考えていくことを促してこなかったような気がした。

そんな中、学生達は入園期の子ども様子や保育の流れが分からないことが予想された。そこで、保育現場で保育者生活をスタートするにあたって不安が大きであろう4月、とりわけ入園式翌日の保育について考える機会を授業で持つこととした。

Table1 実習時期

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年制	1年次						見学実習	幼稚園実習 (1回目)				保育所実習 (1回目)	
	2年次			幼稚園実習 (2回目)			施設実習 (1回目)	保育所又は 施設実習 (2回目)					
3年制	1年次						見学実習	幼稚園実習 (1回目)				保育所実習 (1回目)	
	2年次			幼稚園実習 (2回目)			施設実習 (1回目)	保育所又は 施設実習 (2回目)					
	3年次												

2. 方法

時期：2017年12月

対象者：「保育内容人間関係」受講者

保育内容人間関係の受講者は本学の最終学年（2年制の学生は2年次、3年制の学生は3年次）の学生である。また、保育内容人間関係は幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得に関わる必須科目であり、受講者は保育職を希望する者が多い⁹⁾。

内容：入園式翌日の保育の模擬保育。入園式翌日の3歳児の保育の中からグループで相談し選んだ部分（20分間）の模擬保育。

3. 模擬保育をする前に

①模擬保育に取り組んだ理由

今回、入園式翌日の保育を考えるにあたって事例検討などの方法も考えた。しかし、前期に模擬保育をする中で¹⁰⁾学生が子どもの姿を理解することの必要性を感じる場面もあったので、今回は学生がよりリアリティーを持って入園式翌日の保育を考えることが出来るように事例ではなく模擬保育に取り組むことにした。

模擬保育の方法は①学生が個人個人で指導案を書くもの、②グループで話し合っって模擬保育の指導案などを作成していくものがあると考えられる。今回は、時間上の制約やグループ間で話し合いをして模擬保育に取り組んでほしいという筆者の願いもあり、グループで指導案などを作成し模擬保

育に取り組むこととした。

②入園式翌日の保育模擬保育指導案作成前の作成資料

入園式翌日の模擬保育を実施する前に次の1)～3)の資料を作成するように指導した。各作成資料の内容とその資料作成を伝えた理由は次のとおりである。尚、各グループは7～9人となっており、1)～3)の資料は各グループでさらに3つに分かれて相談しながら作成するように伝えた。

1) デイリープログラム

保育は1日のその一部分だけを抜き出して保育をしているわけではなく、年間を通して1日の中でも流れがある。そこで今回の入園式翌日の模擬保育も1日の流れを考える中で取り組んでほしいという筆者の思いがあった。このような理由から入園式翌日のデイリープログラムを作成することとした。

Table2 入園式翌日のデイリープログラム

入園式翌日の保育の流れ	
	クラス
	メンバー
時間	活動内容

2) 環境構成図

幼稚園教育要領の中では幼稚園教育の基礎と

して「環境を通して行うこと」が言われている¹¹⁾。その為幼稚園の教師は「幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整える」¹²⁾必要がある。

この環境を整える(以下、環境構成)為には「幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない」¹³⁾とあるように、幼児の行動を理解し予想することが必要になってくる。

このようなことから、今回の模擬保育においても保育室の様子を想像することは重要であると思われたので、模擬保育をする時の保育室の様子を考え環境構成図を書くように伝えた。

Table3 環境構成図

保育内容人間関係模擬授業(環境構成図)	クラス
メンバー	
注意事項:その活動をする時の室内の環境構成図を描く事	
準備物	

3) 入園式翌日の保育の模擬保育をする前に

ここでは入園式翌日の中でどの部分の模擬保育をするかについて決めるようにした。また、その活動に対する「ねらい」や「子どもの姿」、また「登

- ・入園式翌日の保育を考えたことがなくて想像するのがとても難しかった。
- ・初日は考えたことがなくて今日実際に考えてみたらとても難しく大変だと分かりました。
- ・指導案を考えた。難しい設定なので頑張ります。

このように「入園式翌日の保育を今まで考えたことがなかった」為に「とても難しかった」という意見があった。入園期の子どもの姿などについては授業で伝えることもあったが、それがどのように実際の保育と結びついているのか分からない様子が伺えた。だから、実際に模擬保育を行う準備をする中で、その詳細を考えてみると分からないことが多すぎたようであった。だから学生にとって入園式翌日の保育を考えることは難しかったと思われる。

- ・子どもの姿を考えることが難しかった。
- ・入園式翌日の子どもはどんな態度か考えるのが大変だと思っていました。
- ・入園式翌日の設定は難しい。どんな子がいるのか分からないのは怖いと思った。
- ・入園式の次の日の子どもの様子を見たことがないので難しかったです。
- ・入園したころの子ども様子を見たことがなかったので予想するのが難しかったです。
- ・実習でも、入園直後のころは体験していないので子どもの様子も先生の様子も考えるのが難しいと思いました。

先程も述べたように、入園期の子どもの姿については授業中に口頭で伝えることもあった。しかし、学生達は実習で見たことがなく、DVDなどの視覚教材でもほとんど見たことがなかった為か「子どもの姿の予想」が難しく感じられたことが伺えた。この事から、学生に子どもの様子を伝える時には視聴覚教材を適宜使用することの必要性が伺えた。

- ・子どもが初めてでいちから説明するということが大変だと思いました。
- ・入園した子どもたちはまだ何も分かっていなくて担任としても初めてですごく大変だと思いました。
- ・子どもの様子を考えました。園に慣れていない子どもたちにとって、安心できる場所になることの難しさがあると思った。
- ・入園してすぐの子どもへの配慮がとても難しかったです。

ここでは、入園当初の子どもに対して例えば朝の準備（帳面にシールを貼る、タオルやコップを掛ける、上靴に履き替えるなど）一つをとってもどのように何も知らない子どもに伝えていったら良いのかと悩む姿が見られた。これは入園期の子どもの姿を少し予想できたからこそ出てきた悩みであると思われる。また、教師が同僚・年長児・保護者に朝の準備なども助けてもらうのではなく、一人で何もかも行わなくてはいけないと思っていると考えられた。

- ・デイリープログラムすら難しかった。
- ・デイリープログラムを考えるのもどのくらい時間が掛かるのかなどを考えるのが難しかった。
- ・実習の時、子どもたちは保育の流れを理解していたので、入園式の翌日はどんな事が出来るのか、何をしたら良いのかと考えるのが難しかったです
- ・実習ではなんとなく過ごしていた時間もいざ書きだすと自分たちが保育者の立場になると考えるととても難しかった。
- ・子どもの姿を考えて環境構成を考えないといけないのは難しい

子どもの姿はなんとなく想像できるが、時間配分やその日の主な保育内容や子どもの動きを考えた環境構成といった指導案との結び付けに悩む姿が伺えた。

・入園式の次の日の指導案を考えていくのはとても大変であり、今日は9人で分担して考えているが、担任などになると自分だけで考えていかなくてはいけないと思うとさらに大変だなと思うし、不安だなと感じました。

・グループで協力し話し合いが出来ました。入園式の次の日となると援助もたくさん考えないといけないと思いました。

・グループで協力して話し合いして、いろいろな事を考えられた。

このように、入園式翌日の模擬保育は学生にとって大変で難しい事柄ではあった。しかし、グループ内で相談し様々な意見が出る中でその負担が少し和らいだ様子が伺えた。しかし、全てのグループにおいてこのようにスムーズな協同作業が見られたかと言うとそうではなく次のような意見もあった。

・決めたりするのもなかなか難しく、書いたり考えたりするのはとても大変。

・模擬保育の準備を話し合いながらするのは大変だった。

・全然協力してくれない人がいてむかついた。

グループにおける話し合い自体がうまく回っていなかったり、そもそもグループ内に全く協力しない人が存在していたりして負担が大きかった様子もあった。これはグループの雰囲気やその場をリードしてまとめていく者がそのグループにいたかどうかによって、グループ活動が上手くいったかどうか違って来たように感じた。

ところで、幼稚園教育要領には次のような事柄が記載されている。

一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができ

るようにするための基礎を培うことが求められる¹⁶⁾。

つまり、子どもに対する「自立心¹⁷⁾」と「協同性¹⁸⁾」の獲得が幼稚園教育要領の中で言われている。子どもに求めているにもかかわらず、保育者養成校の学生の中にも仲間と協力して作業をすることが難しいことがあることは矛盾しているように感じる。このような学生にとっての協同活動の在り方については、筆者が模擬保育を行う上での課題である。

4. 模擬保育の実際

模擬保育は以下のような流れで行った。尚、①～③までを授業開始時15分間で行い、④・⑤を25分間で行った。⑥に関しては学生の感想を基に模擬保育の内容を丁寧にフィードバックしたかったので翌週の授業で行った。

① 模擬保育を行う場所づくり

② 各グループでの打ち合わせ

③ 模擬保育を行う順番決め

④ 各グループの模擬保育

・保育者役と子ども役の紹介

・大まかな環境構成の説明¹⁹⁾

・場面の説明²⁰⁾

⑤ 感想

⑥ 模擬保育のフィードバック

5. 模擬保育の内容

各グループの模擬保育の内容は「集い:10件」、「朝の準備:3件」、「登園:1件」、「保育室内探検:1件」であった。尚、「集い」とは「朝の会:9件」と「帰りの会:1件」の事である。「集い」の内容としては、「部屋に集まり、手遊びの後絵本を見る」と言うものであった。

6. 模擬保育における子どもの姿と教師の援助や配慮

学生が予想した入園式翌日の子どもの姿はTable7の通りである。これは学生が予想する子どもの姿を筆者が「どちらかと言うとプラスイメージかどちらかと言うとマイナスイメージ」で分けて見た。

この表から、学生は入園式翌日の姿に対しどちらかと言うとマイナスイメージを持ち「大変だ」と言う思いを持っているように思われた。

しかし、この予想した姿を実際に学生が演じると恥ずかしがってしまう場面も当初は見られた。そこで、そういった場合は筆者も子ども役として模擬保育に入り、学生達が予想した子どもの姿を演じる事が出来るように援助した。

またさらに、子ども役の動きを予想した段階で教師役の学生がこの模擬保育を1人の教師するには大変になると思い、各グループ2人の教師(担任と副担任)で模擬保育を行った。

Table7 学生が予想する子どもの姿

どちらかと言うとプラスイメージ	どちらかと言うとマイナスイメージ
元気に登園する	大人しい
元気に入室し走る	靴を持ったまま用意せず遊ぶ
ずっと先生に話しかけている	緊張している
ずっと先生のそばにいる	感情表現をしない
先生の話を聞いて動く	気が強い
ニコニコしている	下を向いてうつむく
入園前から知っている友だちと遊ぶ	しゃべらない
恥ずかしそうにしている	途中でおもらし
	先生の話に興味を示さない
	先生の問いに答えない
	座って固まる
	先生の話を聞いてもよく分かっていない
	外に行きたくて仕方がない
	脱走する
	途中で眠たくなる
	近くの子どもにちょっかいを掛ける
	何をしてもよいのか分からず立っている
	話を聞かない
	忘れ物をして固まる
	他クラスにいるお姉ちゃんから離れない

6. 模擬保育の感想

この模擬保育に対する学生の感想を次に記す。

- ・模擬保育大変
- ・子ども役をするのって大変
- ・子ども役も先生役もお互いに大変だと改めて思いました。
- ・以前、模擬保育をした時よりも子ども役も先生

役も形になっているように感じました。

- ・みんなの模擬保育を見ていると、こういう子どももいるんだなど改めて勉強になった。
- ・他のグループの模擬保育を見て色々な子どもがいることを知れたので良かったです。
- ・模擬保育で予想されることはたくさんあり、それぞれ違うなと感じました。
- ・皆のグループの様子を見ていたら声掛けとかすごいなと思いました。

模擬保育をする中で、その模擬保育が充実したものとなるかは役を一生懸命演じることである。今回の場合も子ども役が入園式翌日の予想した子どもをどれだけ演じる事が出来るかが大切な要素であった。

前期から引き続き模擬保育に取り組む中で学生も徐々にその事が分かってきたり、恥ずかしさも減ってきたりしたこともあって「以前、模擬保育をした時よりも子ども役も先生役も形になっているように感じました」と言う感想が出てきたと推察された。

・寂しい子を演じるのも難しかったけど、中々入っていない子や泣いている子の対応も難しそうだった。

・実際に模擬保育を行い、部屋に入りたくない子どもやいうことを聞かない子どもがいることを想定して行わなければならないことが分かり大変だなど思いました。

・模擬保育はいつも予想している事より大変状況になるので臨機応変に対応することが大切だと思った。

・子どもになりきることで、先生役になりきることは本当に大変な事だと思う。入園仕立ては特に大変な時期なので今日は特に学ぶことやまだまだ知らないことが多かった。

・担任をしてすごく忙しくて難しかったです。初日は先生も子どもも分からないことだらけで大変だと思いました。

・様々な子どもがいて2人の先生がいても大変そ

うだった。他の先生を呼ばないとまわらないと思った。

・副担任だから楽なのではなく、副担任も大変な仕事だと思いました。

・子ども役も先生役もみんな今まで実習で見えたことを忠実に再現していると思いました。でも、実際現場に出たらうまくできるか不安に思いました。

・入園式の次の日と言うのは子どもたちも緊張で上手いかないし、自分自身もからまわってしまうだろうなと思いました。

・入園式の次の日なので場所が分からなかったり入らない子どもが出るなどいろいろありました。

・模擬授業とても大変でした。でも、絶対経験することなので頑張りたいです。

子ども役が一生懸命その姿を演じることで、具体的に子どもとの関わりについて大変さや不安を感じる様子が伺えた。

・模擬授業をしてみて、みんな子どもになりきっていたり先生の対応など真似する所など覚えておいて保育士になった時に活かしたいです。

・こんなクラスもありそうだなといろいろ考えられる授業だった。

・予想される子どもの活動を実際に演じて見て、私が保育者だった場合どのような対応をするべきなのか考えるきっかけとなった。

また模擬保育の充実より色々と子どもとの関わりについて考えられるきっかけが出来た様子も伺えた。

・初日は大変だけど、子どもを無理に部屋に入れようとしなくて気分を変えることが大切だと思った。

・1人で出て言った子どもを連れてこさせたりするのが難しかったけど、誰かに頼ることも大切だということが分かりました。

・入園すぐは子どもも不安の気持ちだと思うので、

先生が不安な気持ちにならないようにしようと思いました。

・今日やってみて感じたのは、言葉遣い、声色、トーンはとても重要だなと感じました。表情も大事にしたいと感じました。

・どのグループも一生懸命演じていてこのクラスの良いところだと思いました。入園してすぐの子どもたち、本当はこれ以上に大変だと思うけど、準備をしっかりして落ち着いてしていけたらいいと思いました。

ここでは子どもの姿に対してどのように具体的に援助や配慮をすればよいのかを考える姿がみられた。

7. 学生の感想に対する考察

学生の感想から、模擬保育に対して一生懸命に取り組み子ども役がその役になりきればなりきる程学ぶことが増えてくることが予想された。そしてそれに伴い「実際現場に出たらうまくできるか不安に思いました」という感想にもあるように「不安」や「大変さ」を感じることでできたのだろう。授業の流れとして、このような学生の思いを念頭に置き模擬保育翌週のフィードバックでは、その思いを少しでも解消する為に、具体的な保育方法について考えることが必要になってくると思われた。

8. 模擬保育翌週のフィードバックの概要

模擬保育のフィードバックの内容としては、模擬保育時の感想を基に、入園式翌日の具体的な保育方法について考えることである。

模擬保育準備時に環境構成の中で子どもの動きをあまり予想せず、実習での経験だけでその図を作成した為、模擬保育の中で子どもが朝の準備や降園場面で戸惑う姿が多く見られた。そこで、環境構成図を黒板に書き実際にどこにどのような状態で物を配置すれば子どもの動きが変わってくる

のかについてシミュレーションをした。

一方、子どもとの代わりの場面では泣いてしまっ
てクラスに入ってくる事が出来ない子どもを、
教師役の学生が一生懸命保育室の中に入れよう
として空回りする姿もあった。そこで、子どもが泣
いてしまう理由や部屋に入りたくない子どもの気
持ちを考察した。そして、子どもの保育室に入れ
ない思いを考える中から絶対にどんな場面・状況
でも保育室に子どもを入れることが最善の方法で
はないことを伝えた。

また泣いている子どもや保育の流れが分かっ
ていない子どもがいる中、朝の準備や保育が思っ
たように進まなくて教師役が困る場面も多く見ら
れた。そこで、保育を行う上で必要になってくる他
教諭に相談することや助けを乞う事の必要性を述
べた。併せて教諭だけではなく保育の中で年長児
に朝の準備を助けてもらうこともあることを示し
た。

このように模擬保育に対してフィードバックを
行う中で学生からは、「初日の保育室が遊べる場所
であることを伝える為におもちゃを出すことの重
要性に気付いた」、「環境構成の意味が分かった」、
「泣く子どもの気持ちが多かった」、「入園式の翌
日、子どももいろんな思いを抱えているから寄り
添うことが大切」、「就職して職員同士の人間関係
を大切にしていきたい」、「分からないことは自分
で解決しようってするタイプなので聞く癖もつけ
ようと思った」などの感想が出てきた。

9. まとめと今後の課題

今回の模擬保育を行うにあたって筆者はとても
悩んだ。当初この模擬保育の内容は「友達と関わ
ることが出来るゲーム」をテーマとしたものにす
る予定だった。

しかし最終学年の後期になり続々と就職先が決
まってくる中、学生の口から次年度以降の保育者
²¹⁾としての生活に不安を抱いている声が聞こえて
きた。そこで、各クラスに「元々の模擬保育のテ
ーマはゲームがテーマであったこと。しかし、次

年度以降の保育者としての生活に必要な事を考
える中で、模擬保育のテーマを入園式翌日の保育に
ついて、「に変更しようと思う」ことを伝えた。

学生からは「エュー、模擬保育」、「やってみよ
う」、「確かに必要かも…」、「難しそう」という意
見が出た。はっきり言って、この模擬保育のテ
ーマである「入園式翌日の保育」を保育者養成校の
学生は、実習などで全くと言っていいほど見たこ
とがない。だから、学生にとってとても難しい内
容であることは容易に想像できた。

しかし取り組む中で難しいからこそよく内容を
考えた結果「仕事をしていて、分からなかったら
周りに相談すること」、「環境構成は子どもの動き
を考えること必要なこと」、「子どもの動きだけ
ではなくその思いにも気付いていくこと」という事
に気付くきっかけになったのではないかと思う。

ところで、この模擬保育のテーマに取り組めた
理由の一つとして2年次前期の乳児保育Ⅱの中で
模擬保育を複数回行った²²⁾ことがあると思われる。
前期で指導案作成に必要な子どもの姿を理解する
ことを学び、それを踏まえて今回の模擬保育に取
り組む事が出来た。だから学生達は今回の模擬保
育で環境構成・子どもへの援助と配慮・保育者間
の協定の必要性に少しずつ気付くきっかけになっ
ていったのではないかと思われた。

しかし、今回の模擬保育では次の2点が課題と
して挙げられる。

第一にほとんどのグループはグループで協力し
て模擬保育の準備を行えたが、一部協力できな
かったグループがあったことである。保育をするう
えで「保育者間の協定」は必要な事である。それ
に一人でも多くの学生が気付く事が出来るように
普段の授業から何らかの方策を考えることが必要
である事。

第二に学生の中には「小学校実習しか行って
いないので子どもの姿が分からなかった」という学
生がいたことである。このような学生がいる事
にも授業担当者として配慮し、模擬保育までに幼
児期における子どもの姿をもっと丁寧に伝えるこ
とが大切である事。

このような事を踏まえ、次年度以降も学生の様子を見ながら、授業を展開していく事が必須であると思われた。

1) 文部科学省 2008 幼稚園教育要領解説 p7-10
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/youkaisetsu.pdf (2017/12/26 アクセス)

幼稚園教育要領は2017年3月に新たに告示されたがまだ解説書が出ていない。そこで、今回は、2008年に告示された幼稚園教育要領の解説書を使用した。

今回の箇所については幼稚園入園期の子どもの姿やその関係の広がりについて記載された場所であり、それほど2008年版と2017年告示版では大きな違い長いと思われたので参考にした。

2) 文部科学省 2008 幼稚園教育要領解説 p12 (2017/12/26 アクセス)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/youkaisetsu.pdf

3) 文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p3
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf(2017/12/26 アクセス)

4) 文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p6
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf(2017/12/26 アクセス)

5) 田宮緑 1999 3歳児の入園当初における分離不安に関する事例研究 日本保育学会大会研究論文集(52), p170-171

6) 天野菜穂子 宮本正一 1998 三歳児の幼稚園入園児の分離不安 岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)47 p199-206

7) 松井玲子 松尾真由美 2015 入園当初の子ども 京都聖母女学院短期大学研究紀要 p54

8) この表にある時期の実習は2016年度入学者までである。2017年度以降の入学生に関しては次の表のように実習時期が異なる。しかし、この表にもあるように4月及び5月には実習に行っていない。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年制	1年次						見学実習					保育所実習(1回目)	
	2年次			施設実習(1回目)			幼稚園実習	保育所又は施設実習(2回目)					
3年制	1年次						見学実習					保育所実習(1回目)	
	2年次			施設実習(1回目)				保育所又は施設実習(2回目)					
	3年次						幼稚園実習						

9) 本授業の受講者の中には小学校免許をメインで取る

うとしている者も5~10名程度含まれる。従って、全員幼稚園、保育所、認定こども園などの保育職に就くわけではない。

10) 林富公子 2017 「子どもの姿」を理解すると言うことー乳児保育Ⅱにおける模擬保育の概要を通してー教育実践研究紀要 第11号 p48-59

11) 幼稚園教育要領第1章総則第1幼稚園教育の基本の中に「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」とある。

文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p3
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf (2017/12/24 アクセス)

12) 文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p2
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf (2017/12/24 アクセス)

13) 文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p3
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf (2017/12/24 アクセス)

16) 文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p2
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf (2017/12/24 アクセス)

17) 平成29年3月告示の幼稚園教育要領では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として10の姿がある。このうちの1つである「自立心」はこの中で「身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる」と説明されている。

文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p4
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf(2017/12/26 アクセス)

18) 17)と同様に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の1つである「協同性」は「友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる」と示されている。

文部科学省 2017 幼稚園教育要領 p4
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/138466_1_3_2.pdf

1_3_2.pdf(2017/12/26 アクセス)

19) 今回の模擬保育では、学生が保育における環境構成の重要性に気付けるようにしたかったので、模擬保育開始時に大まかな環境構成の説明を求めた。尚、大まかな環境構成の説明とは①出入り口の場所と状態（ドアの開閉や鍵の有無）、②タオル・コップかけ、帳面台、ロッカー、ピアノ、トイレ、おもちゃなどの位置と状態について口頭で説明することである。

20) 場面の説明とは、1日の保育の流れでどの部分を模擬保育で取り組むのかということをお口頭で説明することである。

21) 学生の就職先として、幼稚園、保育所、認定こども園がある。その為、幼稚園の先生を表す「教師」ではなく、「幼稚園教諭」、「保育士」、「保育教諭」を併せ持ったニュアンスを伝える為にここでは「保育者」と表記した。

22) これに関する内容の概要は既出「林富公子 2017 「子どもの姿」を理解するということー乳児保育Ⅱにおける模擬保育の概要を通してー 教育実践研究紀要 第11号 p48-59」に詳しく記している。

ピアスーパーバイザーからのコメント

本論文は、子どもの入学式翌日という特別な状況に焦点をあてた模擬保育の実践研究の記録である。保育士養成校で模擬保育を行う際、学生の多くは未だ子どもと関わる経験に乏しいため、実際の子どもの行動を再現することは難しい。また実演に苦手意識を持つ学生もあるが、ここでは、学生がそれぞれの役になりきってみることに重点を置くことによって、子どもの行動や気持ちについて様々な気づきを得ていることが示されている。この実践を行うには困難な面もあるが、それを協同して乗り越える過程からも、この模擬保育の授業が各学生の「子ども観」を育む点において意義深い活動になっていると考えられる。

(担当：佐藤有紀)